関東大震災における流言の拡散

樋浦　郷子

はじめに
1　関東大震災前の朝日新聞記事目録を読む
2　宇都宮流言と碓氷流言
3　北東北・北海道の「女の毒水」流言
4　関東大震災以降の社会
おわりに――「井戸に毒」のこだま

はじめに

関東大震災後の朝鮮人等の虐殺のうち戒厳令施行域内で生起した大規模なものは，ほとんど執行猶予か恩赦による減刑に至ったとはいえ，荒川放水路事件や船橋送信所事件など「事件」として断片的ながらも裁判記録などの形で歴史に残ることになった[(1)]。

しかし，戒厳令の施行地域の外側，すなわち法制度上の非常時とは言い難かった多くの地域において，ただ流された朝鮮人に関わる根拠のない報道の大部分は，何が虚報であったのかを明らかにされることもなく埋もれていった。本稿は埋もれた流言を改めて観察し，要因や影響の検討を行うものである[(2)]。

本稿にとって重要な先行研究は次の二つである。一つは，大畑裕嗣・三上俊治「関東大震災下の

(1)　荒川放水路事件の記録については，山田昭次編『朝鮮人虐殺関連新聞報道史料』，別巻，緑蔭書房，2004 年，266 頁。船橋送信所事件の記録については姜徳相・琴秉洞編『現代史資料 6　関東大震災と朝鮮人』，みすず書房，1963 年，20-38 頁。

(2)　関東大震災における虐殺に関する研究として注目されるのは田中正敬による近年の虐殺事件研究の蓄積である。田中は東京府内の流言から虐殺の記録を丁寧に掘り起こしている。さらに，田中らの研究グループはこれまで言われてきたような，流言を受けて殺気立った自警団による殺害という形とは異なり，一度収容された習志野収容所から「払い下げ」られた朝鮮人の殺害について，千葉の船橋と八千代の例をフィールドワークを取り入れつつ，慎重に浮き彫りにした 。千葉県下の朝鮮人殺害事件は『いわれなく殺された人びと　関東大震災と朝鮮人』（千葉県における関東大震災と朝鮮人犠牲者追悼会編，青木書店，1983 年）で一定程度明らかになっているが，改めて跡付けて継承の努力を行っている。田中正敬「関東大震災時の朝鮮人，中国人，日本人流言・殺傷事件についての公文書と民間記録――東京の記録から」，専修大学人文科学研究所『人文科学年報』52 号，2022 年 3 月。田中正敬・専修大学関東大震災史研究会編『地域に学ぶ関東大震災――千葉県における朝鮮人虐殺　その解明・追悼はいかになされたのか』，日本経済評論社，2012 年。

「朝鮮人」報道と論調」（上）（下）[3] の分析である。この論考では，メディア史の観点から新聞報道の問題点を浮き彫りにした。具体的には，河北新報（仙台）の詳細な分析を通じ，地方紙の問題として①「情報入手ルートの制約」，②「罹災者から伝えられた流言が，チェックされずに報道された，という事情」，③流言に踊らされた地元警察，④「東北地方において当時朝鮮人在住者が少なかったという事情」の 4 点を要因として提示した [4]。要因④については，炭坑やトンネル工事などで労働する朝鮮人の存在が認識されていないという問題を含むとも考えられるため，さらに慎重な検討を要するものの，①から③までは本稿の前提になっている。

二つ目に，山田昭次の研究である。関東大震災時の流言が震災の被害地域に限らず全国規模のものであったという問題視角にもとづく仕事 [5] のなかでも，同編『朝鮮人虐殺関連新聞記事史料』[6] の成果に，本稿は多くを負う。この資料集は，戒厳令の布かれた東京・埼玉・千葉だけでなく，樺太から台湾まで新聞記事上の流言を拾い上げ，元記事と見出し目録，新聞から確認できる裁判記録とを掲載している。ただし収録されていない地方新聞もいまだ多く，神奈川や群馬など震源やその近隣県でも手つかずで残ったところもある点は，後続研究にとっての課題でもある。

筆者はこの課題解明のための初歩的な試みとして 2015 年に，「栃木県における関東大震災「流言」関係新聞記事目録」[7] を執筆した（以下「前稿」）。そこでは栃木県を対象に，戒厳令施行地の外側で何が起こっていたのかという関心から，栃木県下の三つの地方紙の 1923 年 9 月の記事目録を作成した。

前稿では第一に，宇都宮は日光（御用邸）と関東戒厳令地域に第 14 師団を充当されたために，民間の自警団の「自衛」意識が増強されていたこと，第二に，宇都宮戸祭（とまつり）配水場に関わる大規模土木工事が数年前に終了しており，新しい水道設備への過剰な警戒心があったと思われること，第三に，これまでの自警団像とは異なり，宇都宮農業学校，商業学校，下野中学校などの生徒が着剣して徹夜で警戒に当たっていたことを指摘した [8]。

以上をふまえて本稿では，戒厳令の外側では，どのような流言が拡散されたのか，前稿で対象とした栃木県も含めながら，より地理上を広範囲に，時間軸も広げて検討する [9]。

直接の揺れの被害や火災の被害が少ない，あるいはまったくない地域に，具体的にいかにして朝鮮人に関わる流言が拡散したのか。山田昭次の仕事から導かれたこの問題視角は，関東大震災に関わる研究だけでなく，災害時のネットデマ問題などの今日の社会にとっての課題を考えるうえでも重要と思われる。

---

(3)　東京大学新聞研究所，第 35 号，36 号，1987 年。

(4)　同上（下），第 36 号，198-199 頁，1987 年。

(5)　例えば『関東大震災時の朝鮮人迫害――全国各地での流言と朝鮮人虐待』，創史社，2014 年。

(6)　山田編前掲，1 ～ 4，別巻，緑蔭書房，2004 年。

(7)　『帝京大学宇都宮キャンパス研究年報』21 号，帝京大学宇都宮キャンパス総合基礎，2015 年 12 月。

(8)　当時の写真や絵画（例えば萱原白洞『東都大震災過眼録』画帖，国立歴史民俗博物館蔵）から，一般に自警団は竹やりや鳶口を手にして半纏など和装で足をまくり，脚絆などをまとった姿だったことがわかる。制服を着ているのは軍人と警官だけだったなかで，学校の制服に兵式体操（教練義務化前である）の訓練で学校に備えていたであろう銃剣を携えている姿というのは，これまでの自警団像を書き換えるほどの事態と想像される。今回はこの課題の解明まで及ばないため，引き続き課題としたい。

(9)　煩を避けるため，新聞の名称は本文・注ともに「　」を省略する。

本稿では「鮮人」「支那人」という差別語が多数出てくるが，歴史上の問題点を示すために本文中ではそのまま掲載する。これらの差別語とその使用を肯定するものではないことを断っておく。

1　関東大震災前の朝日新聞記事目録を読む

震災前1年間（1922年9月1日から1923年8月31日まで）の朝日新聞の朝鮮関係記事データベースによれば，朝鮮人に関わる報道は，一つには尼港事件・シベリアからの撤兵・朝鮮とロシアの国境の，いわゆるパルチザンの動向や三・一独立運動後の朝鮮統治方針関係など，政治外交関係，もう一つは日本内地の朝鮮人と日本人との角逐，に大別できる。これらが相互に絡まりあうものもあるために，正確にはどれくらいの報道がなされたのか数え上げることは困難である。しかしここでは試みに朝日新聞データベース（朝日新聞クロスサーチ）で東京朝日新聞では，国内に在住する朝鮮人に関する報道がどれくらいなされているのかを数えたところ，概数で53記事である（表1）。これらのうち，「人夫」「土工」「労働者」関係の「反目」や「騒ぎ」の報道が18記事，重なるものもあるが「殺し」「乱暴」「賭博」「密売」などの犯罪に関わるものが17記事を確認できる。

表1　関東大震災前1年間の東京朝日新聞にみる国内朝鮮人関係記事一覧

※差別表現の「ママ」を省略する。「夕」は夕刊を示す。

No.	月	日	面	見出し（スペースは改行を示す）	地名
1	9	11	夕2	鮮人土工の不穏　暴行を加えられて　決死の連判状	静岡県（熱海）
2	9	24	5	少女の惨殺体　誘拐された小学生徒　嫌疑の怪鮮人厳探中	奈良市
3	10	5	5	日鮮人夫の反目　朝鮮人夫が日本人夫を殴った　事から危うく百数十名の乱闘　を辛くも鎮撫す	東京（世田谷）
4	11	30	夕2	熱海で鮮人三百名　あやふく血の雨　先は事なく済んだ	神奈川（熱海）
5	12	5	5	鶴見在潮田の路上で土工数十名の大乱闘　日鮮土工の喧嘩から手に手に棍棒を持ち	神奈川（鶴見）
6	12	8	5	鮮人旅行自由	京城特電
7	12	12	5	不良鮮人引致　明大の一隅に額を鳩めて	東京
8	12	21	9	不逞鮮人釈放　大阪で或る計画をした男	大阪
9	12	21	9	隧道内部崩落して日鮮人十名生埋　入口から千四百間の所で生存の見込がない	大分特電
10	12	21	9	自転車屋鑒殺犯人高飛間際に逮捕　預金を奪ふ目的で兇行　蓮尾仙之助とは偽り　実の名は鮮人卓宗甲	
11	12	23	夕2	船頭殺し捕はる　玉川工事の土工鄭大俊　悠々と熟睡中を	東京（玉川）
12	12	24	5	鮮人の行倒れ	東京（新宿）
13	12	26	5	鮮人労働者の楽しい集まり　布哇からも代表者が来て表彰式やお歳暮貰ひ　やがて財団法人に	
14	12	27	5	鮮人の賭博	
15	1	3	7	鮮人惨劇　同僚を殺して加害者も危篤	
16	1	20	5	日鮮工夫の乱闘　負傷十数名を出す　親分の貸した旅費から	
17	2	4	5	千五百人の血を集めて　深町学士帰る	
18	2	6	5	青年会館の籠球戦	東京

No.	月	日	面	見出し（スペースは改行を示す）	地名
19	2	9	夕2	阿片密売　支那人と朝鮮人が	東京（浅草）
20	2	12	3	会旗を奪はれて交番を包囲す　五千の行列天王寺へ吶喊　大阪の示威運動	大阪（中之島）
21	2	12	夕2	芝浦を埋めた労働者の示威＜写＞	東京
22	2	12	夕2	団旗物々しく労働組合示威運動　警官隊の検挙狂奔	東京
23	2	17	夕2	非常警戒中に学生風の短銃強盗　賊は何だか朝鮮人らしい　鎌倉署で面喰ふ	神奈川（鎌倉）
24	2	21	夕2	鮮人運転手続行公判	
25	2	26	3	鮮人の親睦会	東京
26	3	1	5	今日の記念日に鮮人大警戒　各地の鮮人と連絡　不穏と睨んだ警視庁	東京
27	3	6	夕2	前科数犯の鮮人の窃盗就縛　内地人の名を騙り　専ら浅草界隈を荒し廻る	東京（浅草）
28	3	13	5	褞袍や青菜服で堺老の全快祝ひ　小部屋に押込まれつつも心から喜び集ふ会衆百名　満堂を動かした鮮人金君の熱弁／『悪運が強い』喜び＜写＞	東京（京橋）
29	3	28	5	警視庁で又籠抜け　朝鮮人欺かる	東京（四谷）
30	3	30	夕2	鮮人土工十数名の大捨闘　三名瀕死の重傷	神奈川（川崎）
31	3	31	5	日本を罵つた鮮人二名の重傷　横浜賑町で大乱闘	神奈川（横浜）
32	4	17	9	鮮人暴る	東京（代々幡村）
33	4	23	夕2	鮮人の大運動会　主義者も集つて其筋大警戒	東京（駒場）
34	5	2	夕2	堂々練り出す参加の団体四十　盛大なけふのメーデー　警官包囲裏に殺気横溢す／上野の警戒／検束しては自動車へ積む　脚絆草鞋掛の刑事雨にも怯げず上野へ／殴られる覚悟で　柔道着をつけた男／例の真柄嬢警視庁前で　早速に検束／会場検束数十名　婦人や鮮人もまじる／人で埋めた芝公園＜写＞／芝公園の検束者＜写＞	東京（芝）
35	5	4	5	数十名入乱れ　鮮人の大喧嘩　二名を筑摩川に葬る　飯山線工事場の椿事	長野（下水内郡）
36	5	17	夕2	鮮支人又も　乱闘	静岡（三島）
37	5	18	夕2	鮮人専門の学費詐欺　新橋駅待合室で逮捕さる	東京（新橋）
38	5	20	10	人夫殺し鮮人判決	神奈川（橘樹郡）
39	6	2	夕2	鮮人の仲間殺し　犯人葭の中で逮捕	神奈川（横浜）
40	6	25	夕2	鮮人労働者大会　雑司ケ谷で	東京（雑司ヶ谷）
41	6	27	夕2	鮮人土工九十余名大乱闘　十数名は重軽傷　千葉北総鉄道工事の争ひ	千葉（塚田村）
42	7	12	5	鮮人土工暴込む　親方等の酒席へ	東京（多摩）
43	7	15	9	二階墜落　鮮人五名負傷　南千住の椿事	東京（南千住）
44	7	16	2	闇打、恋の遺恨か　遊廓素見中の鮮人瀕死	神奈川（横浜）
45	7	24	5	内地労働者の新しい脅威　失業者の渦く中へ流込む鮮人支那人　紹介所会議の大きい問題	
46	7	27	2	鮮人、土工に宣伝　札附きの危険人物	神奈川（横浜）
47	8	1	6	鮮人土工惨死　生埋めとなつて	神奈川（箱根）
48	8	5	5	上諏訪でもビラ撒き　犯人の二鮮人目下取調べ中	長野（上諏訪）
49	8	5	2	中央線列車内で不穏文を撒布す　怪鮮人を引致取調中	山梨（甲府）
50	8	9	5	鮮人哀願　上越電気の酷使に堪へ兼ね	長野（豊科）
51	8	10	5	人の妾に酌させて鮮人と警官衝突　良子女王お成の前にピストルや棍棒の大騒ぎ	群馬（田口）

No.	月	日	面	見出し（スペースは改行を示す）	地名
52	8	18	5	少女惨殺　雑貨店の娘　犯人は鮮人か	長野（信越線田中駅）
53	8	29	夕2	所持金ゆえに鮮人各所で乱暴　言語不通から早合点して二巡査と隣客を殴る	東京（日本橋）

これらの記事には次の特徴が見られる。まず，ページの下段のスペースを埋めるような小さめの記事が多いことである。大きな記事の合間のスペースを，「朝鮮人との反目」記事で埋めようとしていたことがあるのではないかとも考えられる。次に，「怪鮮人」「不良鮮人」など，ステレオタイプの形容がセットにされている見出しが確認できることである[10]。こうした形容が震災前の段階で朝鮮人イメージの基盤を形成する役割を果たしていたと考えられる。

1923年7月の「職業紹介所会議」で「内地労働者の新しい脅威」（表1整理番号45）と名状されるほどに[11]，すでに多くの朝鮮人が工事の従事のため日本内地で労働するようになっていた。震災前年の1922年には，信濃川支流で発電所工事に従事していた朝鮮人労働者たちが殺害され，大勢の遺体が信濃川に流されるという事件が起こっている[12]。1923年には，日本国内に在住する朝鮮人が10万人を超え，多くが鉄道の電化工事や県境をまたぐ長距離のトンネル工事，炭鉱や港湾など，危険性の高い仕事に従事した[13]。東海道本線の神奈川県から静岡県に至る丹那隧道に代表されるような複数の大規模トンネル工事が，出水や崩落などの事故や災害のなかで継続されていた時期でもある[14]。労働者たちの「反目」「騒ぎ」を，新聞のスペースを埋めるために電話取材で記事にするといった方途が震災前までには定着していたと考えられる。

第三に，大きな事件の際の犯人を朝鮮人かと憶測する記事が注目される。1922年9月24日の「少女の惨殺体　誘拐された小学生徒　嫌疑の怪鮮人厳探中」（整理番号2），翌23年2月17日の「非常警戒中に学生風の短銃強盗　賊は何だか朝鮮人らしい　鎌倉署で面喰ふ」（整理番号23），同年8月23日「少女惨殺　雑貨店の娘　犯人は鮮人か」（整理番号52）がそれにあたる。いずれも根拠は示されず，朝鮮人らしいと独断される記事である。

---

(10)　東京朝日新聞「不良鮮人引致　明大の一隅に額を鳩めて」（1922年12月12日5面），「不逞鮮人釈放　大阪で或る計画をした男」（1922年12月21日9面），同「中央線列車内で不穏文を撒布す　怪鮮人を引致取調中」（1923年8月5日2面）など。このことは，読売新聞でも同様にみられる。

(11)　「内地労働者の新しい脅威　失業者の渦く中へ流込む鮮人支那人　紹介所会議の大きい問題」，東京朝日新聞，1923年7月24日。

(12)　「信濃川を頻々流れ下る　鮮人の虐殺死体　「北越の地獄谷」と呼ばれて　付近の村民恐ぢ気を顫ふ　信越電力大工事中の怪聞」読売新聞，1922年7月29日，「聞くも無残な殺人境　北越地獄谷観察記」（一）（二）（三）同新聞同年7月31日～8月3日。「津南・中津川事件発覚から100年，「負の歴史」風化危惧」新潟日報（魚沼地域版及びネット版），2022年8月17日。

(13)　佐川享平『筑豊の朝鮮人鉱夫――労働・生活・社会とその管理』，世織書房，2021年，24-29頁。

(14)　東海道線で熱海に至るまでの丹那トンネルの工事期間は1918年～33年である。工事期間中多くの湧水崩落などの災害に見舞われ，朝鮮人従事者も犠牲となった。『丹那隧道工事誌』，鉄道省熱海建設事務所，1936年。関西では1920年代，福知山線改良工事や神戸電鉄トンネル工事などで複数の朝鮮人が事故死している。同書編集委員会編『歩いて知る日本と朝鮮の歴史――兵庫のなかの朝鮮』，明石書店，2001年。

このように，1923年9月1日以前の東京朝日新聞の報道からは，日本内地に住む朝鮮人に関わるステレオタイプが形成され，蓄積されていたであろうと推定できる。

2　宇都宮流言と碓氷流言

(1)　宇都宮の流言

関東大震災時の流言として，府県境を越えて広く地方新聞に取り上げられた流言のうち多く拡散されたものとして,「目標(めじるし)に関する流言」[15]や「脱獄についての流言」[16]などの報道を,山田昭次による研究成果から確認できる。それらは地方新聞社による，東京府への電話取材ができない状況下での近隣県への電話取材と，避難してきた人々の談話とともに拡散された。なかでも,「井戸に毒」の系統と「放火・爆弾」の系統は，とくに広域でそのバリエーションも多い。

本節では「水への投毒流言」と「放火・爆弾についての流言」の典型例として，一つには宇都宮配水場に関わる流言（以下本文では宇都宮流言），もう一つは,「信越線碓氷峠流言」（以下，碓氷流言）の事例を検討し，その特性について検討する。

宇都宮では，鬼怒川水系の大谷川から水を引いた今市(いまいち)浄水場から，さらに貯配水を行う設備として,1916年に戸祭配水場が竣工した[17]。宇都宮に関わる流言としては,ほかにも御用邸があった日光に向かう朝鮮人を捕縛したなどの報道が見られる。ここでは日光の関係は原則として除き，一覧の作成を試みた。なお当時の夕刊には，翌日の日付で前日刊行されていたものがある。それが確認できる場合には，表の「面」に実際の発行日と紙面を記す。例えば，5日付の夕刊で実際には前日に刊行され，3面掲載の場合は「日」に5,「面」に4夕3と記す。以下表はすべて同様に表記する。

表2　「宇都宮流言」報道一覧

※差別表現の「ママ」を省略し,「外」は号外を示す。

No.	紙名		月	日	面	見出し（スペースは改行を示す）
1	旭川新聞	北海道	9	5	1	不逞鮮人　毒薬投入　宇都宮水道放棄
2	北海タイムス	北海道	9	5	4	不逞鮮人　水道に毒を　大掃除を行ふ［宇都宮］
3	釧路新聞	北海道	9	5	3	宇都宮水道に毒物を投入　不逞鮮人等の所業
4	小樽新聞	北海道	9	6	7	東京を逃れた不逞鮮人　最後の活動を為すべく宇都宮付近に潜入
5	函館新聞	北海道	9	4	1	（宇都宮水道に）　鮮人毒薬投入
6	函館日日新聞	北海道	9	4	夕3	宇都宮の断水［朝鮮人投毒のため］

(15)「赤色は爆弾，黄色は毒薬班，不逞鮮人(ママ)側(ママ)の目標」（水戸電話）福島民友新聞，2023年9月7日（6日夕3面）。「不逞鮮人団の目標　腕に赤布は爆弾組，黄色の布は毒薬組」いはらき，9月5日。

(16)「脱獄囚三百名　不逞の徒と合して　凡ゆる暴虐を働く」（山形民報，9月5日),「百の囚人脱獄　不逞鮮人と集団して暴威を揮ふ」（河北新報，9月4日),「脱獄の鮮人(ママ)(ママ)三百名　強盗強姦して横浜より逃走　歩兵三十四聯隊へ逮捕を命令」（北陸毎日新聞，9月4日）など。山田編前掲『朝鮮人虐殺関連新聞報道資料』3，別巻（緑蔭書房，2004年）から引用。

(17)　宇都宮配水場配水池は，2005年に土木学会選奨土木遺産，2006年には文化庁登録有形文化財（建造物）に指定されている。

No.	紙名		月	日	面	見出し（スペースは改行を示す）
7	室蘭毎日新聞	北海道	9	5	4夕	宇都宮全市民の暗殺を図る　是も不逞鮮人の所業　全市大騒動で湧返る
8	弘前新聞	青森	9	4	2	宇都宮水道に鮮人毒薬を流す
9	東奥日報	青森	9	4	3	不逞鮮人侵入　宇都宮水源地に毒薬投入
10	岩手日報	岩手	9	5	5	水道に毒薬混入　陰謀宇都宮に及ぶ　当局断水して警戒
11	岩手毎日新聞	岩手	9	5	3	水道に毒　宇都宮の水道断水となる
12	岩手毎日新聞	岩手	9	5	3	不逞鮮人諸所へ侵入　宇都宮にも水戸にも水道に毒薬を混入
13	秋田魁新報	秋田	9	5	3	宇都宮水源地に毒薬を投入　不逞鮮人の暴挙
14	秋田魁新報	秋田	9	8	4	宇都宮付近の鮮人乱暴は虚伝　日光御用邸は御警護
15	日刊新秋田	秋田	9	5	3	不逞鮮人宇都宮に入り水源地に毒薬を投ず
16	日刊新秋田	秋田	9	6	3	不逞鮮人十二名　秋田に向かつたと宇都宮からの飛報　警察俄かに大活動
17	河北新報	宮城	9	4	3夕1	宇都宮にも不逞鮮人数百名入込む
18	河北新報	宮城	9	5	4夕	井に　毒薬を投じたのは　虚報らしい
19	福島民友新聞	福島	9	5	4夕3	爆弾携帯鮮人捕はる　日光に行く途中宇都宮駅にて　十四師団総動員
20	酒田新聞	山形	9	5	2	不逞鮮人宇都宮出現
21	荘内新報	山形	9	4	外	不逞鮮人［宇都宮、大久保方面］毒薬投入
22	山形民報	山形	9	4	3	宇都宮水道に毒薬を投入　軍隊の出動を阻止
23	山形民報	山形	9	5	1	［宇都宮］水源地に毒薬　使用禁止を命令す
24	山形民報	山形	9	5	1	水源地警戒　宇都宮に救護機関
25	山形民報	山形	9	5	1	「宇都宮に］朝鮮人入込　毒薬携帯の者一人
26	山形民報	山形	9	5	2	鮮人又も宇都宮に現る　爆薬を携帯し
27	山形民報	山形	9	6	1	宇都宮以南は宛で戦場の様　不逞鮮人の警戒に緊張し切た地方民
28	山形新聞	山形	9	4	2	宇都宮でも形勢不穏
29	山形新聞	山形	9	5	1	[宇都宮］水源地に毒薬　市役所から使用禁止命令
30	山形新聞	山形	9	5	2	毒薬死亡者二百　宇都宮市の警戒厳重
31	山形新聞	山形	9	5	3	[宇都宮に］爆弾携帯の鮮人
32	米沢新聞	山形	9	5	2	不逞鮮人宇都宮に入る
33	いはらき	茨城	9	5	3	毒薬所持鮮人　宇都宮で逮捕
34	いはらき	茨城	9	9	4	下野特信：宇都宮駅警戒
35	下野新聞	栃木	9	4	3	宮に不逞鮮人潜入説　夕刻迄　怪鮮人四名引致　又罹災民は続々入込　在郷軍人召集警備
36	下野新聞	栃木	9	4	3	不逞鮮人と　宮市の　夜間警戒
37	下野新聞	栃木	9	4	3	水道に毒薬は　虚説だ　白襷隊を組織
38	下野新聞	栃木	9	5	3	戸祭貯水池を　在郷軍人で警戒
39	下野新報	栃木	9	4	2	宮市の水道　危険とは　虚伝だ　毒薬投入等は　全然ウソ
40	下野新報	栃木	9	4	1	不逞鮮人　大警戒　宮市を襲撃
41	下野新報	栃木	9	4	1	宮駅は戦場の如し　消防小頭に斬り付けた　鮮人も斬らる　一名は逃走し更らに　県庁付近で一名逮捕
42	下野日日新聞	栃木	9	5	1	民衆警察の活動　徹宵して警戒　例の不逞鮮人を取押へると
43	下野日日新聞	栃木	9	5	1	市内警戒中の佐藤署長さん　曰く不逞鮮人は市中に無しと
44	新潟新聞	新潟	9	5	4夕4	宇都宮水道に毒を投入したとの噂　多分鮮人の仕業ならん
45	北越新報	新潟	9	5	夕5	宇都宮水道に毒を投入

典拠：山田昭次編『朝鮮人虐殺関連新聞報道史料』3，別巻（緑蔭書房，2004年）。下野新聞，下野新報，下野日日新聞，新潟新聞，いはらき，秋田魁新聞，弘前新聞はマイクロフィルムも参照。

上記表２から，宇都宮水道に関する流言の特徴を，次のように読み取ることができる。第一に，地方新聞では宇都宮の朝鮮人が入ったとの報道は３日発行の河北新報夕刊（整理番号 17）が先んじており，次いで新潟新聞と函館日日新聞の水への投毒報道が４日，あくる５日に，下野新聞（栃木）が「戸祭貯水池を　在郷軍人で警戒」（整理番号 38）と掲載していること。すなわち，地理的には避難民の避難経路とは逆に報道が南下したこと。

第二に，宇都宮市の水に関する噂については「虚伝」「虚報」との報道が栃木県の新聞では複数紙が４日朝刊の段階で報じているものの，翌５日の河北新報と８日に秋田魁新報が「虚報」（整理番号 18）「虚伝」（整理番号 14）と報じたのみで，ほかでは噂が流されるままにされたこと。

第三に，栃木以北へ流れたこと。新潟と函館の報道が比較的早い点を考えると，港湾との関係が推測できる。また，1917 年に竣工した宇都宮市戸祭配水場の建造工事では，セメント供給事業が３件あり，そのうち１件を日本セメント，２件を北海道セメントが請け負っていた [18]。このことから，宇都宮と戸祭配水場という名称が，北海道内の建築業者にも知られた言葉であったとも想像される。

（2）　碓氷峠の流言

群馬県（松井田町）と長野県（軽井沢町）にまたがる碓氷峠は近世には関所が設けられていた交通の要衝である。群馬県の横川と長野県の軽井沢をつなぐ 11 キロを超えるトンネルと橋梁が 1893 年に完成し，鉄道が開通した。関東大震災後の９月４日に，高崎駅で朝鮮人と誤認された日本人１名が殺害された [19]。同様に，長野県境の群馬県横川駅では，朝鮮人と誤認された日本人複数名が，横川駅転轍手らに暴行され負傷した [20]。しかしこれらの事件は発生段階では報道がなされず，碓氷峠の周辺に朝鮮人が逃亡した，松井田駅（当時は横川駅の高崎寄り隣駅）で爆弾を投げたなどの流言が広く拡散した。表３は「碓氷流言」の暫定的な一覧である。高崎駅に関する流言は必ずしも信越線や碓氷流言に関わるものと限らないが，可能性が推定されるものは収録した。

表３　碓氷流言報道一覧

※差別表現の「ママ」を省略する。「外」は号外を示す。

No.	紙名		月	日	面	見出し（スペースは改行を示す）
1	小樽新聞	北海道	9	5	4	信越線の列車に爆弾投下を企つ鮮人
2	函館毎日新聞	北海道	9	5	夕２	軽井沢にも潜入し来る
3	河北新報	宮城	9	5	3	不逞鮮人　軽井沢にも入込む
4	山形民報	山形	9	5	2	高崎に暴徒蜂起　聯隊本部を占領せんと計画　高田師団主力を高崎に集中す
5	山形民報	山形	9	5	2	碓氷峠爆破　七名の不逞鮮人は松本市で捕縛さる
6	福島民友新聞	福島	9	5	4夕３	列車爆発陰謀　不逞鮮人八名を捕ふ　（午後二時長野特報、碓氷峠で列車に爆弾を投ずる目的だったとの記事）

(18)　宇都宮市編『宇都宮市水道誌』，宇都宮市，1917 年，315 頁。
(19)　山田編前掲，別巻，293 頁。殺害犯２名は懲役２年，執行猶予２年の地裁判決を受けた。
(20)　同上，259-260 頁。翌月高崎区裁判所から罰金刑を科された。区裁判所は現行の簡易裁判所に該当する。

No.	紙名		月	日	面	見出し（スペースは改行を示す）
7	新潟毎日新聞	新潟	9	5		爆弾所持の鮮人　危険物携帯して　○○行列車に乗込み逮捕 関東地方頻りに出没　（長野電話）
8	高田日報	新潟	9	5	1	松井田駅頭で列車に投弾せんとした不逞鮮人
9	北陸タイムス	富山	9	5	4夕2	爆弾持つた鮮人各地へ　軽井沢へも多く入込む
10	北陸毎日新聞	石川	9	5	4夕	不逞鮮人爆弾を携え碓氷峠へ列車爆発に入込む一味の鮮人七八名松井田で捕る
11	豊橋新報	愛知	9	5	3	爆弾を携た鮮人　松平［井］田駅で逮捕さる
12	新愛知	愛知	9	5	3	軽井沢駅にて関屋次官に爆弾を投げんとする鮮人逮捕
13	新愛知	愛知	9	5	2	軽井沢駅待合室へ鮮人爆弾を投ぐ　数名の重傷者を出す不良の徒　二百余名引致
14	名古屋新聞	愛知	9	4	外	鮮人浦和高崎に放火　高崎にて十余名捕はる
15	名古屋新聞	愛知	9	4	外	碓氷峠の上から列車爆破を企つ　松井田駅で逮捕された不逞鮮人の自白
16	伊勢新聞	三重	9	5	4夕	碓氷山麓通過の列車に爆弾投下の穏謀暴露し鮮人七八名松井田駅で就縛　軽井沢に入込む不逞鮮人の群れ
17	神戸新聞	兵庫	9	4	1	列車に爆弾　鮮人検束を怒つて［信越線松井田駅］
18	神戸又新日報	兵庫	9	4	外1	怪鮮人怪行動　碓氷峠に姿を晦ます
19	山陽新報	岡山	9	4	4	旅客を満載した列車に不逞鮮人爆弾を投ず［信越線松井田駅付近で］
20	山陽新報	岡山	9	5	4夕1	列車破壊を企て不逞漢碓氷峠に入込む　警戒中なるも行方判明せぬ
21	芸備日日新聞	広島	9	5	5	爆弾を持つ鮮人　軽井沢に捕はる　碓氷峠の大警戒
22	鳥取新報	鳥取	9	5	3	碓氷峠列車破壊を企てた鮮人逮捕
23	愛媛新報	愛媛	9	5	4夕4	［信越線松井田駅付近］進行中の列車に○○［鮮人］が爆弾を投ぐ
24	香川新報	香川	9	5	5	○○［爆弾］を持つ不逞団　警戒中の巡査に捕はる（高崎電話）
25	九州日報	福岡	9	4	外	碓氷峠で列車破壊を企つ　爆弾を携帯する暴徒
26	九州日報	福岡	9	5	4夕	碓氷峠で列車破壊を企つ　爆弾を携帯する暴徒
27	福岡日日新聞	福岡	9	4	外	［高崎市内の朝鮮人］爆弾押収さる（長野電話）
28	福岡日日新聞	福岡	9	5	4夕1	［朝鮮人］碓氷峠に列車を狙ふ　爆弾を携へて潜行
29	佐賀新聞	佐賀	9	5	1	爆弾携帯鮮人捕はる　碓氷峠爆破の陰謀（長野電話三日午前十時着電）
30	東洋日の出新聞	長崎	9	5	3	○○［鮮人］［信越線松井田駅付近］列車に爆弾投ず
31	豊州新報	大分	9	5	4夕	爆弾を持つた鮮人逮捕さる　松井田駅に下車せる所を
32	日州新聞	宮崎	9	5	4夕	不逞鮮人が列車爆破の目的で碓氷峠へ　軽井沢署大恐慌
33	鹿児島朝日新聞	鹿児島	9	5	3	［信越線松井田駅付近で］列車破壊を企つ　爆弾を携へた不逞鮮人（長野電話）

典拠：山田昭次編『朝鮮人虐殺関連新聞報道史料』3，別巻（緑蔭書房，2004年）。

上毛新聞（群馬）を確認する限り，同紙にもさまざまな流言が掲載されてはいるものの，表2にみられる他紙のように碓氷峠や松井田駅に関わる報道は確認できなかった[21]。併せて，上述の横川駅における傷害事件の報道も確認できなかった。群馬県知事が3日夜に流言否定の談話を発出したことの影響や，高崎駅と横川駅の誤認事件については報道統制の可能性も排除できない。

碓氷流言については，まず新潟毎日新聞（整理番号7）・福岡日日新聞（同27）・鹿児島朝日新聞（同33）は，「長野電話」と取材源を明示しており，少なくともこれら地域へは長野県（軽井沢側）から拡散されたと確認できる。さらに，33紙にわたる報道のなかで，北海道東北の地方紙は6記事，残りは中部以南鹿児島まで広がったという，宇都宮流言とは大きく異なる特徴がある。

以上，本節で取り上げた二種の流言の特質は，さしあたり次のように指摘できる。すなわち第一に，両方の流言はともに，内容で語られる現地（高崎郊外，宇都宮郊外）では，確認できる新聞においては具体的な地名や建造物についての報道は少ないこと。これについては，報道統制の可能性も否定できないが，解明は今後の課題である。関連して第二に，これから避難者の到来が予想される地域のほうが，流言を鵜呑みにし誇大な報道を行ったと考えられることである。

3　北東北・北海道の「女の毒水」流言

本節では，朝鮮人の女性に関わる流言を検討する。まず，9月5日発行の東奥日報（青森）の夕刊（紙面の日付上は6日）に，青森選出で立憲政友会所属の衆議院議員で，震災を経験し帰郷した北山一郎が「記者に話した命拾ひ物語」の大見出しで語る話の一節に以下のように記される（引用文中の読点は原文ママ）。

> （引用者注：中見出し）毒薬を入れた水を　女の鮮人が売りに歩いているさうな
> 三日は谷中から上野へ出たが煙と灰が飛ぶので歩く訳に行かない，東京は二昼夜火事があつた，鮮人の悪たくみは井戸に毒薬を投ずるのからばれた，鮮人には毒薬隊と爆弾隊の二手に別れ，女の鮮人は毒薬を入れた水を売りに歩いてるとの話もあつた，それから警戒が厳になつて，鮮人がどれだけ軍隊のために殺されたかしれない，余所から見ると虐殺と見られるかもしれない

北山の談話は本人の写真とともに紙面の二段を使い大きく扱われた。北山は地震直後に同じ青森県選出議員の阿部武智雄とともに行動し，現地で一度別れてから二人別々に青森へ帰郷したようだ[22]。

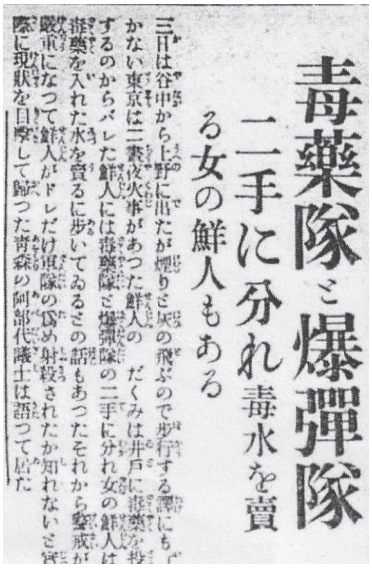
この談話はほぼそのまま翌6日の秋田魁新報に掲載された。しかし，秋田では同じ内容が「毒薬隊と爆弾隊　二手に分れ　毒水を売る女の鮮人もある」という見出しに変わり，さらに北山ではなく「現状を目撃して帰つた青森の阿部代議士」の談話であるとされたうえ，「余所から見ると虐殺

(21)　群馬県側の地方新聞としては上毛新聞のほか上野毎日新聞が刊行されていた時期であるが，いずれも山田昭次編『朝鮮人虐殺関連新聞報道史料集成』には未収録である。上毛新聞は今回調査できたが，上野毎日新聞は国会図書館および群馬県立図書館に所蔵がなく，高崎市立中央図書館では閲覧者による調査が不可能の状態になっているため，調査ができなかった。

(22)　東奥日報（1923年9月6日（5日夕刊2面））は「阿部，北山代議士は無事帰県」と報ずる。

と見られるかもしれない」という部分はカットされている（写真1）。議員から東奥日報，東奥日報から秋田魁新報という段階を経るうちに，記者の恣意も加わり，情報の錯綜に拍車をかけた。

写真１　秋田魁新報，1923年９月６日，３面


毒藥隊と爆彈隊
二手に分れ毒水を賣
る女の鮮人もある

「毒水」流言は，北海道でも拡散された。9月6日の北海タイムス（札幌）では，5日昼に函館に青函連絡船で到着した避難者談話として，東京に住む男性が次のように語ると報道した[23]。

> （略）白山植物園に避難しました 其時はもう夕方で沢山の避難民が集まって居ました　すると女学生の様な人が炊出を持つて来てくれて呉れたりバケツに水を持つて来て親切さうに勧めて呉ますので（略），近所に居つた，バケツの水を飲んだ人達は，皆倒れ私も遽かに苦痛がして来たので 之は毒が入つて居るものと気が付き直に吐き出しました　之は皆鮮人の仕業であることを確信しました それから罪人たちは鮮人と共謀して居るのを見ました

北海タイムスのこの記事は，（函館電話）と文末に記載されている。その函館でも，同じ6日の函館日日新聞に以下（1）（2）の報道が出た。（1）は前日（5日と推定される）の朝到着の青函連絡船の避難者である「早稲田大学の一学生」，（2）は5日昼到着便で避難してきた「某青年」の談話として掲載されたものである[24]（下線はすべて引用者による）。

---

(23)　北海タイムス「握り飯を食べると遽かに大苦痛　バケツの水にも毒　にくむべき鮮人陰謀」（9月6日）。引用にあたり，文中に適宜スペースを入れた。

(24)　（1）函館日日新聞「子供迄竹槍で　鮮人を突刺して　恨みを報じてゐた　上陸した早大生の話」（9月6日夕），同「女と見れば辱める　私も二度襲はれたと　来道した避難者語る」（9月6日夕）。山田編前掲『朝鮮人虐殺関連新聞報道史料』3（緑蔭書房，2004年）から引用。

(1)（略）社会主義者が鮮人と連絡を取って盛んに暴行を働いてゐるのです，驚いたのは鮮人の女学生の活動で彼等は懐中に揮発油を入れて盛んに放火をしてゐました。

(2) 不逞鮮人は驚くべき悪虐なものであります（略）上野方面の避難所では美しい女が瓶へ水を入れて来て，皆んな呑みなさいといふので呑んだ所皆んな激烈な下痢を起して死にました（略）

これらの「談話」からは，少なくとも一つの流れとして，青函連絡船による避難者たちが函館における流言の発信源となり，道内新聞がその拡散役であったことを明示する。「毒水」流言の北東北・北海道での報道を整理したものが次の表４である。

表４ 「毒水」流言の拡散

※差別表現の「ママ」を省略する。

No.	紙名		月	日	面	見出し（スペースは改行を示す）
1	北海タイムス	北海道	9	6	3	遽かに大苦痛　バケツの水にも毒　憎むべき鮮人陰謀（函館電話）
2	函館日日新聞	北海道	9	6	夕	女と見れば辱める　私も二度襲はれたと　来道した避難者語る（毒水流言）
3	函館日日新聞	北海道	9	6	夕	子供迄竹槍で　鮮人を突刺して　恨みを報じてゐた　上陸した早大生の話
4	小樽新聞	北海道	9	5	外	女鮮人　大陰謀暴露は毒薬を井戸に投じた事から
5	小樽新聞	北海道	9	6	4	女鮮人　大陰謀暴露は毒薬を井戸に投じた事から
6	室蘭毎日新聞	北海道	9	7	3	女鮮人が毒水を売り歩く！
7	東奥日報	青森	9	6	夕	毒薬を入れた水を　女の鮮人が売りに歩いてるさうな
8	秋田魁新報	秋田	9	6	3	毒薬隊と爆弾隊　二手に分れ　毒水を売る女の鮮人もある

典拠：山田昭次編『朝鮮人虐殺関連新聞報道史料』3，別巻（緑蔭書房，2004年）。小樽新聞・秋田魁新報は国会図書館所蔵マイクロフィルム，函館日日新聞は函館市中央図書館所蔵マイクロフィルムも参照，東奥日報は青森県立図書館所蔵マイクロフィルムを参照。

水を配るのではなく「売る」との報道は，北山代議士か阿部代議士かは判然としないが，青森に帰郷した議員の談話から拡散されたと推定され，同じ系統の流言は小樽と秋田で６日，室蘭へも７日に伝わった（整理番号４から８）。

他方，青函連絡船の対岸である函館では，議員ではなく男性の避難者の談話として，毒水を「配る」女の流言が発信され，これは函館から同時に電話で北海タイムス（札幌）へと広がった。「毒水」流言は青函連絡船の乗り降りの地双方で共時的に，別の発信源，伝播役により拡散されたと推定される。

第１節で検討したように，震災以前に朝鮮人労働者と日本人労働者との「反目」をめぐってはすでに大量の報道がなされていた。この流言における女性イメージに着目すると，初発の北海タイムスでは「女学生の様」，続く報道では「美人」という一定の女性像を伴っていた。それまでに形成されていた朝鮮人への先入観に，ここで特定の女性イメージも塗り重ねられていったといえる。女性イメージの形成と拡散を考えるうえでは，本節で見た談話の語り手がすべて男性とされていることも重要である。避難者のなかで「誰が，何を語るか」とともに，記者が「誰に何を語らせ，どの

部分を報じたか」という論点も示しているからである。

4　関東大震災以降の社会

関東大震災直後の1923年9月7日，勅令第403号「治安維持ノ為ニスル罰則ニ関スル件」が発出された。全文を引用する（下線は引用者による）[25]。

> 出版，通信其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス　暴行，騒擾其ノ他生命，身体若ハ財産ニ危害ヲ及ホスヘキ犯罪ヲ煽動シ，安寧秩序ヲ紊乱スルノ目的ヲ以テ治安ヲ害スル事項ヲ流布シ　又ハ人心ヲ惑乱スルノ目的ヲ以テ流言浮説ヲ爲シタル者ハ　十年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千円以下ノ罰金ニ処ス

ここで流言浮説への罰則規程が示され，のちに治安維持法に継承された。9月8日頃から全国的に流言報道は減少しはじめ，10月には「悪自警団」「不良自警団」報道が広まり，一部の自警団の責任だとする報道姿勢[26]へと流れていった。しかしこうした傾向は一時のもので，震災以前に形成されていた朝鮮人のステレオタイプの報道（誘拐事件などの犯人を朝鮮人と根拠なく疑う報道など）は復活したり，流言の責任は朝鮮人にもあるといった報道がなされた[27]。

関東大震災から1年9カ月後，治安維持法が施行された後初めての大災害となる，北但馬地震（北但大震災）が発生した。1925年5月23日，兵庫県豊岡を中心にした地震と火災であった。

北但馬地震においては，翌24日の神戸新聞が「早くも流言飛語　県当局飛機で五万のビラを震災地上空から撒く」と報道した。この記事に朝鮮人の文言は見られない。翌25日の同紙には「奉仕的に働く鮮人　地方民から感謝されて居る」との記事を出した。28日の同紙は「流言盛んに行はれ　警察大活動開始　姫路市民不安の一夜」との記事を掲載したが，内容は「強盗襲来」というもので，朝鮮人の文言はない。これらから，流言が姫路までは拡散したものの報道では朝鮮人の文言は見られない状況を，関東大震災との相違として確認できる。関東大震災で流言を真実かのように掲載していた下野新聞，新潟新聞も調査したものの，それらでも朝鮮人に関する流言は確認できなかった。報道機関には一定の抑制があったとみることができる。

しかし，神戸新聞が地震2日後に「感謝される朝鮮人」の報道を行ったことは，逆に前日報道された「早くも流言飛語」に朝鮮人に関わるものが入っていたことを間接的に示しているのではないか。実際後日の回想においては，避難の列車内で朝鮮人に関わる噂を聞いたとの話が残されている[28]。治安維持法施行後において，報道機関への規制や新聞社自身による一定の抑制があっても，関東大震災直後のような朝鮮人に関わる流言自体はなくならなかった。

---

(25)　国立公文書館所蔵御署名原本より引用。引用にあたっては常用漢字を用い，スペースを補った。

(26)　山田編前掲，別巻，362頁。

(27)　山田昭次は資料解説で，一部の自警団に全責任を負わせた報道の姿勢について，前掲大畑・三上の成果を引いて改めて指摘している。同上，解説，361頁。大畑・三上前掲論文。

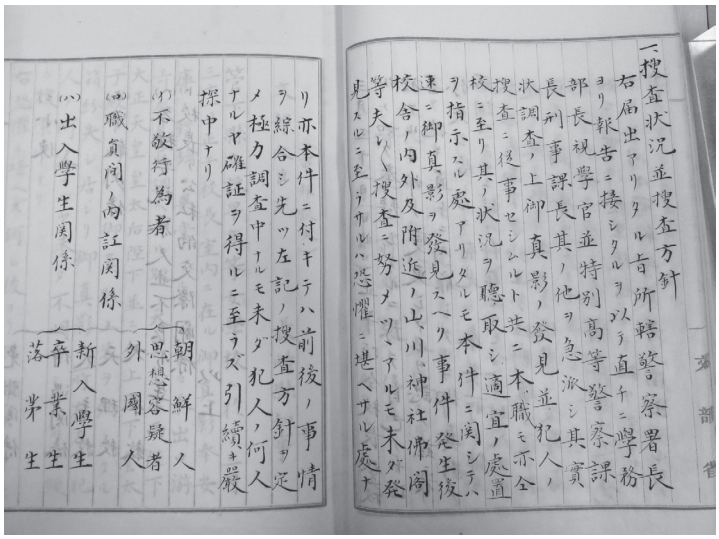
(28)　金慶海「豊岡を襲った1925年北但馬大震災と朝鮮人」，前掲『歩いて知る日本と朝鮮の歴史――兵庫のなかの朝鮮』，243-244頁。『城崎町消防年表史――北但震災50年を迎えて』城崎町消防本部，1974年，118頁。

関東大震災の流言は，それまでに社会に定着していた朝鮮人に対するステレオタイプをいっそう強化する推進力を有したとも考えられる。例えば，1925 年 10 月の小樽高商軍事教練事件にそれがかいま見える。小樽高等商業学校軍事教練事件とは，同年から中高等教育機関で軍務期間の短縮の恩典とともに義務化された軍事教練の野外演習で，小樽で大震災が起き社会主義者が朝鮮人を扇動し暴動を起こしたとの仮の想定のもと，水源地に集合させて軍事教練を実施した事件である。この事例は，軍事教練義務化反対運動団体や日本の朝鮮人団体により問題視され，大きな事件となった[29]。

しかし他方で，軍事教練のなかった女子対象教育機関では，事件化せずに埋もれた問題は数多くあったと推測される。例えば 1929 年 3 月には，長崎県諫早高等女学校において御真影が紛失し，長崎県学務部長や視学官，特高警察，刑事課長などを巻き込む騒動となった。これが当時「御真影紛失事件」と呼ばれたのは，厳重な保管義務が定められていた御真影の紛失が，学校だけでなく県の行政や治安を動揺させるほど重大事だったためである。

この「事件」について，長崎県知事は経過説明の文章「御真影紛失事件ニ関スル件」[30] を文部大臣へ書き送っている。そこには，見つかっていない犯人の候補を「（イ）不敬行為者（ロ）職員間の内訌関係（ハ）出入学生関係（ニ）小使（ホ）宗教関係（へ）各種要視察人並不良少年（ト）校長ノ公私的交際関係」に分類し，「先ツ左記ノ捜査方針ヲ定メ極力調査中」と記載される。この「捜査方針」のリストの（イ）の最初に「朝鮮人」と明示される。

写真 2「御真影紛失事件ニ関スル件」昭和四年四月四日
長崎県知事伊藤喜八郎発　文部大臣　勝田主計宛（宮内公文書館所蔵『御写真録』収載）


一捜査状況並捜査方針
右届出アリタル旨所轄警察署長ヨリ報告ニ接シタルヨリ直チニ學務部長視學官並特別高等警察課長刑事課長其ノ他ヲ急派シ其實状調査ノ上御真影ノ發見並犯人ノ捜査ニ後事セシムルト共ニ本職モ亦全校ニ至リ其ノ状況ヲ聽取シ適宜ノ處置ヲ指示スル處アリタルモ本件ニ関シテハ速ニ御真影ヲ發見スヘク事件發生後校舎ノ内外及附近ノ山、川、神社佛閣等夫レ〳〵捜査ニ努メツヽアルモ未ダ發見スルニ至ラサルハ恐懼ニ堪ヘサル處ナリ亦本件ニ付キテハ前後ノ事情ヲ綜合シ先ツ左記ノ捜査方針ヲ定メ極力調査中ナルモ未ダ犯人ノ何人ナルヤ確証ヲ得ルニ至ラズ引續キ嚴探中ナリ
(イ)朝鮮人
(ロ)不敬行為者
(ハ)職員間内訌関係
(ニ)思想容疑者
(ホ)外國人
(ヘ)出入學生関係
(ト)新入學生
(チ)卒業生
(リ)落第生

(29)　倉田稔「小樽高商軍教事件」（上）（下），『商学討究』47 巻第 2-3 合併号，4 号，小樽商科大学，1997 年 1 月，3 月。荻野富士夫「小樽高商軍教事件」『小樽商科大学史紀要』2 巻，小樽商科大学百年史編纂委員会，2008 年。
(30)　宮内公文書館所蔵『昭和 4 年 御写真録』収載。

御真影の紛失自体は「事件」になっても，朝鮮人を窃取犯の第一番目に想定することについては問題にはならず，当たり前と認識された。男子の中等教育機関での教練における仮想敵も，女子の中等教育機関から御真影を窃取するのも朝鮮人だ，と根拠なく目される社会は関東大震災の経験を経て，むしろゆるぎなく出来上がっていったのではないか。

おわりに――「井戸に毒」のこだま

本稿では，まず関東大震災前年の報道の状況を確認してから，水への投毒に関わる宇都宮流言と爆弾・放火に関わる碓氷流言に着目し，それらが必ずしも宇都宮の配水場や碓氷トンネル入り口側（群馬）を初発としていないとみられることを示した。次に，東北と北海道に拡散した朝鮮人女性に関わる流言を検討し，青函連絡船の避難者の乗り場側である青森からも降り場側の函館からも拡散したことや，避難者が発信源で，新聞社が拡散者であることを具体例から跡付けた。また，これら三種類の流言およびその後の事例を検討しながら，誰が何を語るかとともに，誰が誰に何を語らせ問題としたのかという課題や，そこに根深く見えづらいジェンダー観が貼りついていることが推定された。

関東大震災での流言も，それ以前の朝鮮人報道とあいまって，その後の日本国内の朝鮮人観を決定的に固着させたものであり，もとよりその影響はその後の北但馬地震（1925 年 5 月），小樽高等商業学校軍事教練事件（1925 年 10 月），諫早高等女学校御真影紛失の捜査（1929 年 3 月）にとどまらない。

関東大震災から 22 年後の 1945 年，敗戦直後の日本では，宇都宮市や現在の八王子市（当時の片倉村）で朝鮮人が攻めてくる，あるいは水への投毒といった噂を聞いたとの証言が知られる[31]。他方，解放に沸く朝鮮内では混乱のなかで，朝鮮南部の村で次のような噂があったことが，地域の人の漢文による日記に残されている。「（前略）聞　大邱地　日人潜火粮倉施毒水道　人民致傷至」[32]。大邱の日本人が放火や投毒を行い負傷者がいるとの噂である。大邱は日本人が多く在住していた南部の都市で，混乱のなかの流言と考えられる。関東大震災の流言は，移動制限と厳しい情報統制[33]のもとにあった朝鮮内にも広まり，日本人への接触が地域の巡査などに限られていた地域でも人々の心に沈潜し，22 年もの時を経て放火・投毒の主体を朝鮮人から日本人へと転換して吹き出した。

残された課題は数多いが，まずは残された地方紙を読み込む調査の継続，そして日本内地にとどまらず，旧植民地を含めて個人の日記や作文の調査を始めたい。

（ひうら・さとこ　国立歴史民俗博物館准教授）

(31)　この点は鄭永寿が「敗戦／解放前後における日本人の「疑心暗鬼」と朝鮮人の恐怖：関東大震災との関連を中心に」（『コリア研究』7 号，2016 年）において，加納実紀代らの仕事を引用しながら整理，検討している。

(32)　原文にスペースを補った。韓国國學振興院所蔵『惺惺録』（記号 254 日記），旧暦 1945 年 9 月 2 日条。調査は国立歴史民俗博物館基盤共同研究の一環として実施され，閲覧にあたり韓国國學振興院からは格別のご助力を得た。

(33)　厳しい統制については前掲『いわれなく殺された人びと』，234-235 頁。